

2019年度実習体験先アンケートより抜粋



《 実習中に印象的だったこと・よかったこと 》

実習で学んだことを、十分にアウトプットできるようにプログラムを組んでみましたが、体裁的な働くことへの価値観ではなく、学生の皆さんが一人の人間として率直に感じていることを、自分自身の言葉の表現で話し合い、仲間の考えの良さを認め合いながら自身の考えに吸収していく様子が多く見られました。

「協同労働は“自らの居場所づくり”であり同時に“同じように居場所を求める誰かのための居場所づくり”であると感じた」と述べてくれた学生がいましたが、「自分のために働くことが、人のため、地域のためになる」価値観まで深めることができたのではと感じています。

最後に関係者も招待して報告会をしてもらったのですが、1時間で発表と事前に伝えた中でインターン生が主体的に打ち合わせして、自宅で資料を作成しほぼ1時間のプレゼンテーションを要点を抑えながら完結させていたことが印象的でした。



《 感想 》

全体を通じて、学生の皆さんから学ぶインターンとなりました。「働く価値観を、プラス・マイナス双方向でイメージする」ことから始めた実習でしたが、屈託なく考えを伝え合う中で、自然と働く上で協同することや人とのつながりの大切さに気付いてくれたと感じています。資格や給与ではなく、働くことの根底にある「そもそも」の話から深めることの大切さに、私たちが気付かされました。

社会に出ることに不安を持っている学生が多いようですが、このような機会をどんどん使って、社会を見てもらえればいいし、実際に働いている社会人と会って話して度胸もつけていってもらえたら、実際の就活の時も社会人になってからもその経験が活きると思います。

今回のインターンを通じて、学生の皆さんの考え・意見・想い…を肯定的に引き出すことで、新たな気づきが生まれ、自身の学びがより深まることがよく分かりました。組織としての研修の在り方を考える上でも、貴重な機会となりました。